

支部活動

九州支部

□第31回 日本肺癌学会九州支部会

平成3年8月6日(火)
長崎グランドホテル
当番幹事 山邊 徹
(長崎大学医学部)

特別講演 I

肺癌外科治療の現況

千葉大肺研外科 山口 豊

特別講演 II

人癌における癌関連遺伝子の 発現と臨床的意義

長崎大腫瘍医学 珠玖 洋

1. 佐賀県における肺癌検診の 現況

佐賀県肺癌検診部会

小柳孝太郎, 吉田猛朗

佐賀県では、S63年度より、肺癌検診体制が確立され、H2年度は受診率23%、要精検率1.1%、精検受診率73%、肺癌発見率43.2/10万人であった。発見肺癌19例中、治癒切除14例(74%)で、早期肺癌は7例(37%)であった。3年間で、61例の原発性肺癌が発見され、喀痰細胞診C判定より3例のROLCが発見されていた。今後の課題として、特に男性の受診率の向上、精検受診の徹底、喀痰細胞診C判定の取り扱いなどがあげられる。

2. 肺癌の発育よりみた胸部X 線検診の検討

長崎県総合保健センター*

長崎大第2内科 早田 宏*

富田弘志*, 広瀬清人

門田淳一, 須山尚史, 岡三喜男

河野 茂, 原 耕平

放射線影響研究所 早田みどり

胸部X線検診は受診者中の肺癌の66%を発見し、I期は全体の33%であった。X線検診の効果を減少させている原因は、急速進展例(主に小細胞癌・扁平上皮癌)の多さ、小型進行腺癌の存在、腺癌の早期発見の困難さにあった。今後の検診は、小細胞癌・扁平上皮癌に対する禁煙予防と腺癌に対する新たな画像診断法の開発に重点を置くべきであった。

3. 間接フィルムを用いた、肺 癌検診における乳頭陰影の 検討

熊本県成人病予防協会

泉 薫子, 衣笠勇雄, 清田幸雄

同 肺癌読影班 志摩 清

絹脇悦生, 他40名

当協会では、昭和61年度より、間接フィルムを用いた、肺癌検診を行っている。間接写真上における乳頭陰影は、肺癌の孤立性円形陰影と、鑑別困難な例があり、そういった陰影に対して、D-nippleと判定し、nipple markを装着して再検した。2年間に、D-nipple判定は、366例で、男性11例、女性355例。平均年齢52.5歳であった。結果は、乳頭、骨影、血管影などの異常なしが、284例。ブラ1例、気管支拡張症1例、

真菌症が1例、肺癌疑いが1例であった。

4. 当科外来を受診した胸部検 診要精密例の検討—肺癌検 診を中心に—

熊本市民病院呼吸器科

田中不二穂, 福田浩一郎

平田奈穂美, 西村純子

浜本淳二, 岳中耐夫, 志摩 清

肺癌検診の普及しつつある今日、精密医療機関として検診からの要精密患者への対応のあり方を、当科外来を受診した要精密患者153例において、施行された検査内容、最終診断、発見肺癌などから検討した。発見肺癌は計10例で、I期8例、IIIA期1例、(不明1例)であり、全例手術が施行された。また、最終診断が異常なしの群に対して検査項目の組み合わせを少なくし、経済的負担の軽減を配慮する必要があると考えられた。

5. 胸部X線、CTにて肥厚像の 見られなかったびまん性中 皮腫の1例

国療田川新生病院呼吸器科

栗田幸男

産業医大第2外科 中西浩三

白日高歩

症例：64歳、男性。現病歴：昭和63年8月胃透視時に偶然、胸水を指摘された。結核性胸膜炎として抗結核剤投与が行われたが胸水は減少しなかった。平成2年6月になり咳嗽のため来院。胸水量は以前と変化なく、細胞診にて中皮腫を考えたがX